

決算

平成27年度 決算報告

03 企業会計決算

企業会計とは、特定の事業を行う会計のうち、地方公営企業法の適用を受けて独立採算を行う会計で、武雄市には2つの会計があります。

区分		収入	支出	差引
水道事業	収益的	13億2148万円	12億8381万円	3767万円
	資本的	1億111万円	5億3975万円	△4億3864万円
工業用水道事業	収益的	5842万円	5436万円	406万円
	資本的	3060万円	4016万円	△956万円

ポイント
水道事業会計及び工業用水道事業会計は、資本的収支で赤字となっていますが、それぞれ内部留保資金で対応しています。

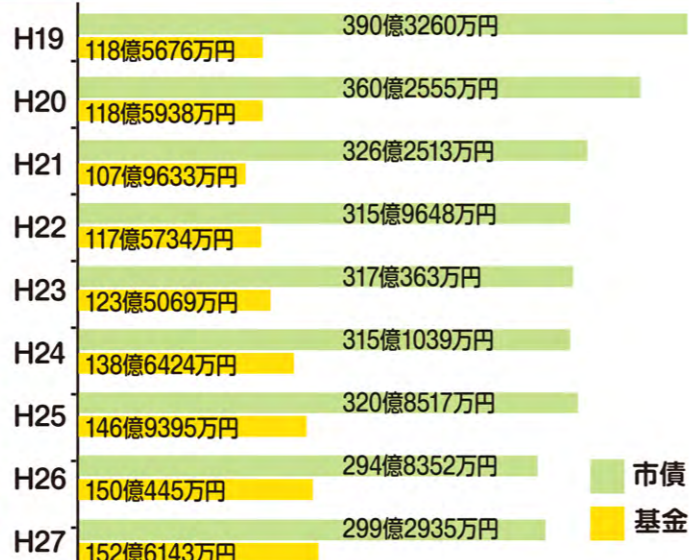
※「内部留保資金」とは、減価償却費などの現金支出を伴わない支出で、企業内に留保される自己資金のことです。

04 市債(借金)と基金(貯金)の状況

ポイント
市債残高 299億2935万円
(市民一人当たり約60万円)
市債(借金)(全会計の市債の合計。ただし臨時財政対策債を除く。)は、前年度より約4000万円増加しました。また平成19年度と比較して約91億円減少しています。

※「臨時財政対策債」とは、地方交付税の財源に充てられる地方債のことで、その元利償還金相当額は後年度に地方交付税措置されます。

ポイント
基金残高 152億6143万円
(市民一人当たり約31万円)
基金(貯金)は、合併振興基金やまちづくり応援基金への積み増しをしたことにより、前年度より約2億5000万円増加しました。



05 健全化判断比率と資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、平成27年度決算における「健全化判断比率」と「資金不足比率」をお知らせします。武雄市は、いずれの指標も基準内をキープしています。

○健全化判断比率

指標	武雄市	県内市町の平均値	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	12.92	20.0
連結実質赤字比率	—	—	17.92	30.0
実質公債費比率	7.9	9.7	25.0	35.0
将来負担比率	21.7	53.2	350.0	基準なし

※早期健全化基準・財政再生基準
健全化判断比率の4つの指標のうち、1つでもこの基準を超えると、それぞれ「財政健全化計画」及び「財政再生計画」を作成し、国の関与の下、財政の再建に取り組むことになります。

○資金不足比率

会計名	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0
工業用水道事業会計	—	
下水道事業特別会計	—	
給湯事業特別会計	—	
新工業団地整備事業特別会計	—	

※経営健全化基準 20%を超えると経営健全化計画を国に報告する必要があります。

武雄市の財政指標は、いずれも健全化基準を下回っていますが、今後、普通交付税など歳入の減少が見込まれていることから、楽観できる状況ではありません。今後とも、より一層の経費削減と効率的な財政運営に努めていきます。

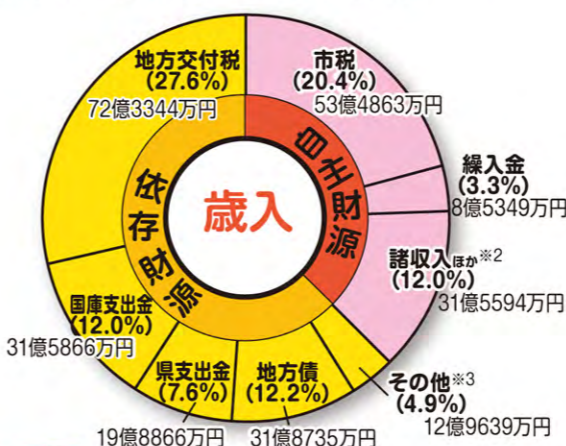
詳しくは 財政課 ☎0954-23-9320

01 一般会計決算

一般会計とは、皆さんからの税金などを財源として、福祉、教育、まちづくりなど市の基本的な行政運営を行う会計です。

歳入総額 262億2256万円
(市民一人当たり約52万円) ※1

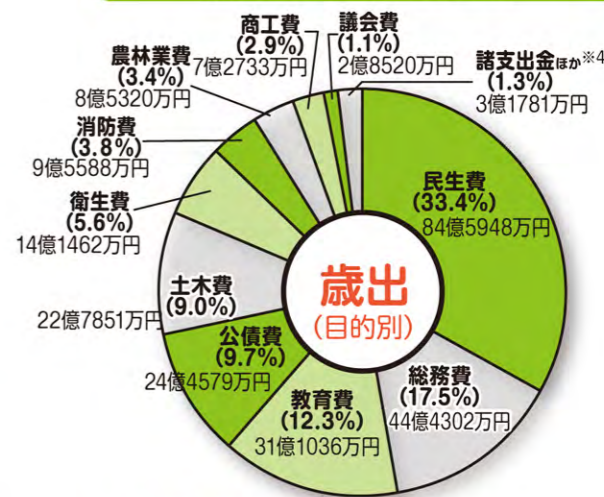
自主財源…市が独自に徴収することができるお金
依存財源…国や県などから入ってくるお金



ポイント
一般会計歳入総額は262億2256万円となり、前年度と比較して7億5209万円(3.0%)の増となりました。
消費税率の引き上げに伴い地方消費税交付金は増加しました。また、普通建設事業(新庁舎建設等)に伴う地方債が増加しました。

※1 市民一人当たりの金額は、平成28年1月1日現在の住民基本台帳人口49,965人で算出しています。
※2 「諸収入ほか」は、諸収入、繰越金、寄附金、財産収入、分担金・負担金、使用料・手数料の合計
※3 「その他」は、地方譲与税と地方消費税交付金などの各種交付金の合計
※4 「諸支出金ほか」は、諸支出金、災害復旧費、労働費の合計

歳出総額 252億9120万円
(市民一人当たり約51万円)



ポイント
一般会計歳出総額は252億9120万円となり、前年度と比較して12億8371万円(5.4%)の増となりました。
新庁舎建設事業、まちづくり応援基金積立金(総務費)や企業誘致奨励金(商工費)などによる増が主な要因です。
◎歳出の1位は民生費
歳出を目的別に見ると福祉関係の費用である民生費が全体の約3分の1(33.4%)を占めています。社会保障費の増大に伴って、今後も増加していく見込みです。

02 特別会計決算

特別会計とは、料金収入などにより特定の事業を行う場合に経理を明確に区分するために設ける会計のことで、武雄市では一般会計とは別に7つの特別会計を設けています。

会計区分	歳入	歳出	差引
国民健康保険	77億9907万円	80億1473万円	△2億1566万円
後期高齢者医療	5億7999万円	5億7727万円	272万円
下水道事業	13億4043万円	13億4014万円	29万円
土地区画整理事業	4億88万円	3億9816万円	272万円
競輪事業	116億4674万円	108億9999万円	7億4675万円
給湯事業	2673万円	2484万円	189万円
新工業団地整備事業	3億2562万円	3億2562万円	0万円

ポイント
国民健康保険特別会計は△2億1566万円の赤字となっていますが、平成28年度の予算によって対応しています。運営状況は大変厳しいものになっています。